

酒沼

(ひぬま)

位置：北緯36度16分、東経140度30分／標高：0m／面積：935ha／湿地のタイプ：汽水湖／保護の制度：国指定鳥獣保護区特別保護地区／所在地：茨城県鉾田市、茨城町、大洗町／登録：2015年5月／国際登録基準：2、4、6

湿地のタイプ：汽水湖



西から見た酒沼全景



内水面漁業が盛んにおこなわれている



スズガモの群れ

湿地の概要：

酒沼は茨城県の太平洋岸、大洗海岸から5kmほど内陸にある関東地方最大の汽水湖である。約6000年前には海の入江だったが、海の後退にともない下流に土砂が堆積し、海と切り離されてできた海跡湖で、面積935ヘクタール、平均水深2.1mの東西に細長い形をしている。酒沼川、笠間川などが流れ込み、東北端から那珂川を経て約10km先の太平洋とつながっている。

平坦な関東平野の水田地帯に位置し、満潮時には海水が遡って沼に入り込み、海水と淡水が混じり合う汽水環境が形成される。場所によって塩分濃度が異なるため、汽水性、海水性、淡水性のさまざまな生物が生息している。豊かな生物多様性を利用して、酒沼では昔から漁業が盛んで、ヤマトシジミ、マハゼ、ワカサギなどの水産業が今も地域を支えている。

汽水性のイトトンボで、絶滅が危惧されているヒヌマイトトンボの生息するヨシ原や、あまり見られなくなったタコノアシ、オオクグ、ミズアオイなどの植物が現存することでも知られている。

スズガモの重要な越冬地：

沼では、これまでに88種の鳥類が記

録されている。冬にはマガモ、スズガモなどのカモ類が多く越冬し、特にスズガモは、東南アジア地域個体群の個体数の1%を超える5000羽程度が毎年飛来し、重要な越冬地となっている。また、絶滅が危惧されるオオワシの越冬も見られる。

豊かな恵み：

酒沼にはその豊かな魚類層を背景に、内水面漁業としては全国でも珍しい専門の漁師がいる。その資源を守るため、種によって漁獲サイズや捕獲時期の制限等の取り決めがある。針も網もエサも使わない「たかっぽ、笹浸し」と呼ばれる伝統漁法がおこなわれ、江戸時代からあったとされる「酒沼竿」等が伝承されている。

市民のいこいの水辺：

酒沼は昔、霞ヶ浦の北浦とともに東北地方から米や産物を江戸に運ぶ水運の要路として活用された。現代では、水遊び、釣り、ヨット、キャンプ、自然散策など、人々のレクリエーションやツーリズムの場として親しまれている。

周囲22kmある湖岸には、酒沼自然公園、筑波山を望む名勝で知られる広浦公園、砂

浜のビーチが人気の親沢公園、プール遊びが楽しめるいこいの村酒沼や酒沼ヨットハーバーなど、さまざまなアウトドアスポーツの拠点になっている。

【ヒヌマイトトンボ】河口など汽水域のヨシ原に生息するイトトンボの仲間、1971年に酒沼で初めて発見されてこの名がある。酒沼以外での生息も確認されているが、河口堰や護岸工事でヨシ原が減り、絶滅が危惧されている。

●関係自治体

鉾田市役所 Tel:0291-33-2111

茨城町役場 Tel:029-292-1111

大洗町役場 Tel:029-267-5111

